

1. (1) 12cm (2)  $3\sqrt{3}$  cm (3)  $27\sqrt{3} - 9\pi$  cm<sup>2</sup>

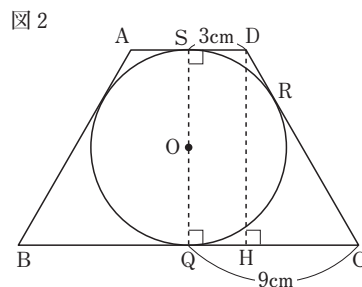
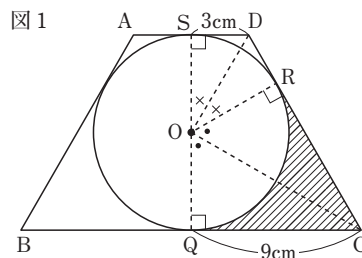
**解説** (1) 図1の△OCRと△OCQにおいて、円の接線は接点を通る半径に垂直だから、 $\angle ORC = \angle OQC = 90^\circ$  また、 $OR = OQ$  (半径)、 $OC = OC$  (共通)だから、直角三角形で、斜辺と他の1辺がそれぞれ等しく、 $\triangle OCR \equiv \triangle OCQ$  よって、対応する辺は等しいから、 $CR = CQ = 9$  同様に、 $\triangle DOR \equiv \triangle DOS$  より、 $DR = DS = 3$  したがって、 $CD = 9 + 3 = 12$  (cm)

(2) 図1で、 $AD \parallel BC$ 、 $OQ \perp BC$ 、 $OS \perp AD$ より、QSは円Oの直径である。図2で、点Dから辺BCに垂線DHを引くと、四角形SQHDは長方形だから、 $SQ = DH$ 、 $QH = SD = 3$  よって、直角三角形DHCで、 $CH = 9 - 3 = 6$ 、 $CD = 12$ だから、三平方の定理より、 $DH = \sqrt{12^2 - 6^2} = 6\sqrt{3}$  したがって、 $SQ = DH = 6\sqrt{3}$  より、円Oの半径は  $6\sqrt{3} \div 2 = 3\sqrt{3}$  (cm)

◀別解>  $\triangle OCR \equiv \triangle OCQ$  より、 $\angle COR = \angle COQ$ 、 $\triangle DOR \equiv \triangle DOS$  より、 $\angle DOR = \angle DOS$  だから、 $\angle COD = 180^\circ \div 2 = 90^\circ$   
 $\triangle DOR$ と $\triangle OCR$ において、 $OR \perp CD$ だから、 $\angle ORD = \angle CRO = 90^\circ \dots\dots ①$   $\angle DOR + \angle COR = 90^\circ \dots\dots ②$   
 $\triangle DOR$ で、 $\angle ORD = 90^\circ$ より、 $\angle DOR + \angle ODR = 90^\circ \dots\dots ③$  ②、③より、 $\angle ODR = \angle COR \dots\dots ④$  ①、④より、2組の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle DOR \sim \triangle OCR$ であり、 $OR : 9 = 3 : OR$ が成り立つ。これを解くと、 $OR^2 = 27$ より、 $OR = \sqrt{27} = 3\sqrt{3}$  (cm)

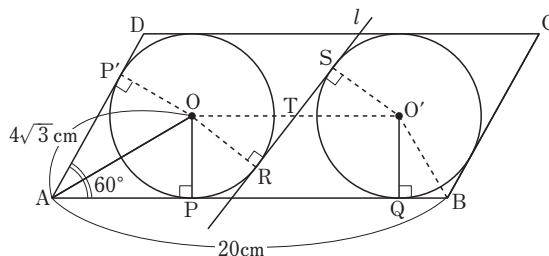
(3) 図1で、斜線部分は、四角形OQCRからおうぎ形OQRを除いたものである。また、 $\triangle OCQ$ は、 $\angle OQC = 90^\circ$ 、 $OQ = 3\sqrt{3}$ 、 $CQ = 9$ だから、 $OQ : CQ = 3\sqrt{3} : 9 = 1 : \sqrt{3}$ より、3辺の比が $1 : 2 : \sqrt{3}$ の直角三角形で、 $\angle COQ = 60^\circ$  よって、おうぎ形OQRの中心角は、 $\angle QOR = 60^\circ \times 2 = 120^\circ$ となり、斜線部分の面積は、

$$\left(\frac{1}{2} \times 9 \times 3\sqrt{3}\right) \times 2 - \pi \times (3\sqrt{3})^2 \times \frac{120^\circ}{360^\circ} = 27\sqrt{3} - 9\pi \text{ (cm}^2\text{)}$$



2. (1)  $2\sqrt{3}$  cm (2) 12cm (3)  $4\sqrt{6}$  cm

**解説** (1) 図のように、円Oと辺ADの接点をP'とする。△OAPと△OAP'において、点P, P'は円Oの接点だから∠OPA=∠OP'A=90°, OAは共通, OP=OP'(半径)より, △OAP≡△OAP' このことから, ∠OAP=∠OAP'=60°÷2=30° よって, △OAPは3辺の比が1:2:√3の直角三角形だから,  $OP=\frac{1}{2}\times 4\sqrt{3}$



$=2\sqrt{3}$  (cm)

(2) (1)より,  $AP=2\sqrt{3}\times\sqrt{3}=6$  また, 図で,  $DC\parallel AB$  より, 円O, 円O'の直径は等しいので, その半径も等しく,  $O'Q=OP=2\sqrt{3}$  さらに,  $BC\parallel AD$  より,  $\angle ABC=180^\circ-60^\circ=120^\circ$  となるから, △O'BQは, (1)と同様に考えると,  $\angle O'QB=90^\circ$ ,  $\angle O'BQ=120^\circ\times\frac{1}{2}=60^\circ$  で, 3辺の比が1:2:√3の直角三角形となる。

よって,  $BQ=\frac{1}{\sqrt{3}}\times 2\sqrt{3}=2$  したがって,  $PQ=20-6-2=12$  (cm)

(3) 図のように, 点Oと点O', 点Oと点R, 点O'と点Sを結び, 直線lと線分OO'との交点をTとする。△ORTと△O'STにおいて,  $\angle ORT=\angle O'ST=90^\circ$  これより, 錯角が等しいから  $OR\parallel SO'$  となり,  $\angle TOR=\angle TO'S$  円O, 円O'の半径は等しいので,  $OR=O'S$  よって, 1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので, △ORT≡△O'ST このとき,  $RT=ST$  より  $RS=2RT$ ,  $OT=O'T$  より  $OT=\frac{1}{2}OO'$  また, 四角形OPQO'は長方形なので,  $OO'=PQ=12$  より,  $OT=\frac{1}{2}\times 12=6$  したがって, △ORTで,  $RT=\sqrt{6^2-(2\sqrt{3})^2}=2\sqrt{6}$  より,  $RS=2\times 2\sqrt{6}=4\sqrt{6}$  (cm)